

## 次世代教員養成塾（前期プログラム）の概要について

### 1 目的

本県の教員を志望する学生・生徒に、本県教育を担う資質・能力を育成する。

### 2 前期プログラムの対象者

県内の高等学校又は中等教育学校に在籍し、県内の小学校教員を志望する生徒で、次のいずれにも該当する者。

- (1) 校長の推薦を受けた者
- (2) 大学への進学後も、本プログラムを受講することができる者

※受講人数は、毎年80人程度とする予定

※受講に際しては、受講を希望する生徒の意欲等を確認するため、あらかじめ、面接等を実施する予定

### 3 前期プログラムの実施期間

高等学校2学年又は中等教育学校5学年に在籍する年度の10月から高等学校3学年又は中等教育学校6学年に在籍する年度の8月までの期間

### 4 前期プログラムの内容

次世代教員養成プログラム策定委員会を設置し、平成28年10月6日より4回にわたる協議を行った結果、概ね資料1のとおりの内容を予定している。

### 5 前期プログラムの実施主体

次世代教員養成プログラム実行委員会（以下の構成機関により設置）

- ・奈良教育大学
- ・奈良県内に大学法人が置かれている大学で、小学校教諭1種免許を取得することができる大学のうち、本プログラムに賛同した大学  
（奈良女子大学、畿央大学、帝塚山大学、奈良学園大学、大和大学）
- ・奈良県教育委員会

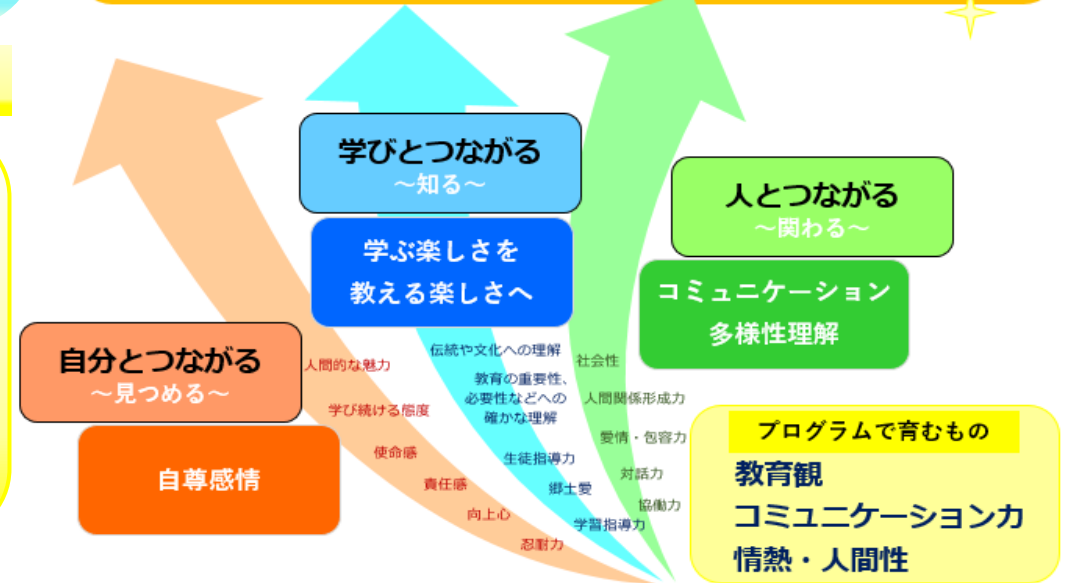
### 6 前期プログラムにおける各機関の役割

- (1) 次世代教員養成プログラム実行委員会の構成大学
  - ・前期プログラムのうち1回以上を担当する。
  - ・前期プログラム受講者に対して、出席状況、課題の提出状況等の評価を行う。前期修了認定のための総合評価は実行委員会で行う。
- (2) 奈良県教育委員会
  - ・前期プログラムの講座等の実施に協力する。

夢を確かな目標につなげる ～自分の目指す理想の教員像の構築～

前期プログラムのポイント

- ・ 高校生のキャリアデザインに資する内容にする。
- ・ 各回で伸ばしたい力を明確にし、その力をつける内容にする。
- ・ 各回の中に必ず「交流」「体験」「振り返り」の時間を設ける。
- ・ 「学習者」としての多様な経験が教育観を育むという観点から、「学ぶことの楽しさ」を基盤に「教えることの楽しさ」につながる内容にする。
- ・ 自ら考え、自らの言葉で表現する（書く、説明する等）活動を重視する。
- ・ 小学校教員や、教員を目指す大学生と交流する場を設ける。



H30	パーソナリティ・資質に関する内容				担当大学等	各講座の内容及び目標	授業の形態等（例）			各講座のテーマ（例）	
	自分とつながる	人（仲間・社会）とつながる	学びとつながる	生き方とつながる			交流する	体験する	振り返る ※各回の講座の振り返りは必ず含む		
	自尊心 (自己理解能力)	コミュニケーション 多様性理解 (人間関係能力)	学ぶ楽しさを 教える楽しさへ (専門的知識)	キャリアデザイン (キャリア開発力)							
4	プログラムの概要を県内高校に発表				7	第1期プログラム受講生の募集					
8	第1期プログラム受講希望者に対する面接の実施				9	第1期プログラム受講者の決定					
10	◎	◎	◎	◎	奈良教育大学	・自分の目指す理想の教員像について考えをまとめ、プログラムの参加に対する意識を高める。	今までに出会った先生について	理想の教員像についてスピーチを行う	教員になるための学びについて	第1回 ガイダンス・教職へのビジョン	
11	◎	◎	○	○	奈良学園大学	・様々な人々や文化との出会いを大切に、対話と交流を通して積極的に相互理解を図ろうとする態度の必要性を理解させる。	今までで学校で学んだ人権に関する内容について	道徳の模擬授業を受ける	相互理解を図るための自身の態度について	第2回 道徳について	
12	◎	◎	○	○	奈良女子大学	・奈良県の地域性や特徴についての考えを交流することを通じて、郷土を誇りに思う心を育成することの大切さを理解する。	小・中学校での郷土教育の経験について	奈良を紹介する模擬スピーチを行う	郷土としての奈良の魅力について	第3回 郷土を愛することについて	
1	◎	◎	○	○	大和大学	・アクティビティ等を通して交流を深め、外国語を学ぶ楽しさに触れ、外国語教育の必要性を理解するための視点をもたせる。	言語や文化と自分の関わりについて	外国語活動の模擬授業を受ける	コミュニケーションの能力とは何かについて	第4回 外国語とコミュニケーション	
2	◎	◎	○	○	奈良教育大学	・教員になるために、さらに伸ばしたい自分の長所、これから身につけたい資質能力について考えをまとめる。	小学校現場の状況について	Career Counselling for Teachers を体験する	先生の仕事の奥の深さについて	第5回 先生を目指す私	
4	○	○	◎	◎	畿央大学	・小学校6年間の児童の発達特性を自分の成長を振り返りながら考え、教える内容は発達に即して定められることを理解する。	自分の小学生の頃のエピソードについて	発達段階に応じた懐かしい遊びを体験する	子どもの遊びや体験と発達との関係について	第6回 私も小学生だった	
5	○	○	◎	◎	奈良教育大学	・自然科学を学ぶ楽しさや意義について交流し、学ぶ楽しさを教える楽しさにつなげるための視点をもたせる。	自分の好きだった教科や単元について	理科の実験を体験する	自然科学をなぜ学ぶのかについて	第7回 「理科」は好きですか	
6	○	○	◎	◎	帝塚山大学	・人文科学や社会科学を学ぶ楽しさや意義について交流し、学ぶ楽しさを教える楽しさにつなげるための視点をもたせる。	作品を見せ合い、批評や意見交換を実施 他	伝統的な定型詩の作成 他	人文科学・社会科学を学ぶ楽しさについて	第8回 短歌・俳句を学び、作ってみよう他	
7	◎	○	◎	◎	奈良教育大学	・これからの学校にどのような教員が必要かを理解し、学生の間にしておきたい学びや経験・体験等を目標として意識化させる。	大学生の間に挑戦したいことについて	模擬プレゼンテーション	過去の経験と挑戦したいことをつながりについて	第9回 大学生の間にやっておくべきこと	
8	◎	○	◎	◎	全大学	・これまでの学びをもとに、自分の目指す理想の教員像についての姿や、理想に近づくためのライフプランを説明できる。		プレゼンテーション	自分の理想の教員像について	第10回 私の理想の先生像	
8	前期修了レポートの提出（ポートフォリオ含む）				奈良教育大学						
9	前期総合評価・前期修了認定				実行委員会						
H32以降	4	後期プログラムの開講				今後検討		前期総合評価について			指導者としての成長
		学校現場実習						・各回の出欠を含む取組の状況			
		ワークショップ（模擬授業等）						・各回の課題等の内容及び提出状況			
		レポート・論文の作成、推薦図書に対する取組等						・プレゼンテーション、討論の評価			
		後期総合評価・後期修了認定						・ポートフォリオ・レポートの評価 等			
							前期修了認定			ポートフォリオの作成について	
										・前期プログラムでの学び	
										・ボランティア活動等自主的な体験	
										・学校での学び	
										・英検等の資格取得 等	

## 次世代教員養成プログラムの構成（予定）

①前期プログラム（高校生 2、3 年生対象）……約 3 時間×10 回（月 1 回、土曜日に実施）

高校 2 年生	テーマ（例）	高校 3 年生	テーマ（例）
10月（第 1 回）	ガイダンス・教職へのビジョン	4月（第 6 回）	私も小学生だった
11月（第 2 回）	道徳について	5月（第 7 回）	「理科」は好きですか
12月（第 3 回）	郷土を愛することについて	6月（第 8 回）	短歌・俳句を学び、作ってみよう 他
1月（第 4 回）	外国語とコミュニケーション	7月（第 9 回）	大学生の間にやっておきたいこと
2月（第 5 回）	先生を目指す私	8月（第 10 回）	私の理想の先生像

※ 大学（奈良教育大学、奈良女子大学、奈良学園大学、畿央大学、帝塚山大学、大和大学）が中心になって運営する。**※現在調整中。**

- 前期プログラムは奈良県の教員を目指す高校生のキャリアデザインに資する内容とする。
- 各回で伸ばしたい力や到達目標を明確にし、その力量をつける内容にする。
- 各回の中に、必ず「交流」「体験」「振り返り」の時間を設ける。
- 「学習者」としての多様な経験が教育観を育むという観点から、前期プログラムでは「学ぶことの楽しさ」を重視した内容にする。
- 自ら考え、自らの言葉で表現する（書く、説明する等）活動を重視する。
- 小学校教員や、教員を目指す大学生と交流する場を設ける。

- ◆ 受講者はポートフォリオを作成し、第 5 回で中間確認、第 10 回でプレゼンテーションによる発表を行う。
- ◆ 各大学は各回の受講生の出席状況の記録、課題等の評価を行う。
- ◆ 前期修了認定のための総合評価は実行委員会が行う。
- ◆ 受講生が在学する高等学校及び中等教育学校は、総合評価を資料に単位認定を行うことができる。（1 単位）

②後期プログラム（大学生対象）…… 1、2 回生では年 1～2 回程度の教育研究所での講義を実施。自主  
**※詳細は次年度以降検討**

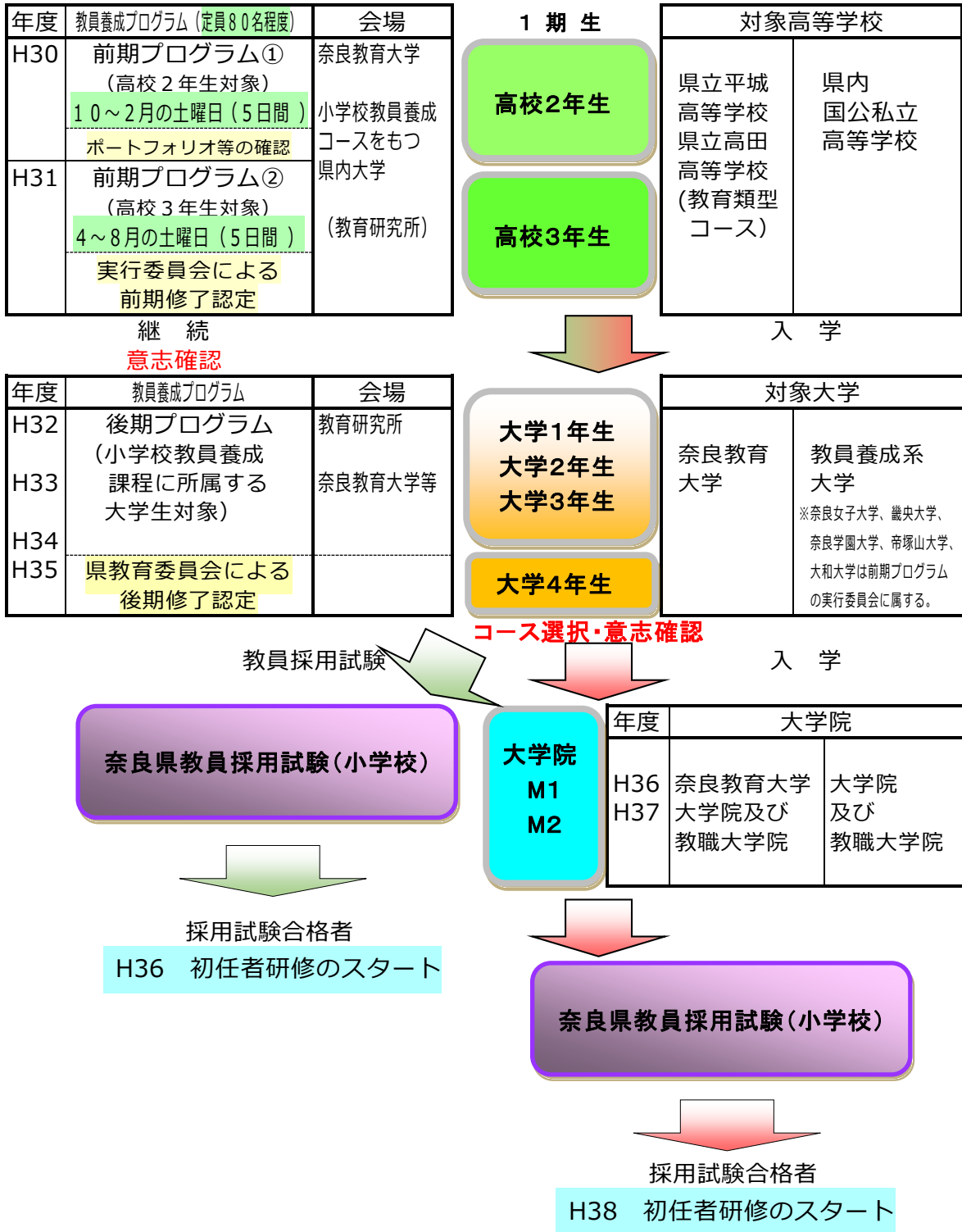
研修として、社会体験活動、インターンシップ、レポート、実施報告書の提出等を中心に行う。  
 3 回生で教育研究所での講義を 6 回程度（※検討）実施する。  
 4 回生の 4 月（※検討）に後期プログラムの修了認定を通知する。

大学 1 回生	大学 2 回生	大学 3 回生	大学 4 回生
・自主的な学び 自主的社会体験活動 （自主的にボランティア活動などを計画・実施） ・推薦図書講読 ④実施報告書の提出 ④レポートの提出	・県内幼稚園、保育所等へのインターンシップ （学校現場実習）※検討 ・推薦図書講読 ④実施報告書の提出 ④レポートの提出	・指導力向上研修（指導案作成、模擬授業等） ④指導主事による評価 ④大学の成績証明書提出 ④英検等資格証明書提出  ※修了認定	・修了証の交付

※ 県教育委員会教育研究所が中心になって運営する。

# 次世代教員養成プログラム

資料 3



## プログラムのポイント

- ◆高校2年間、大学4年間の6年間を通じて、本県教育を担う資質能力をもつ教員を育成する。
- ◆前期プログラムの会場は各大学等で持ち回り、後期プログラムの会場は県立教育研究所及び奈良教育大学とする。
- ◆後期プログラムは、前期プログラムを修了し、対象大学において小学校教員養成課程に在学する学生を受け入れる。
- ◆前期プログラムは対象大学等で構成する実行委員会が、後期プログラムは県教育委員会が主体となって実施する。